

グランドデザインの構成要素

検討委員会等でのご意見とグランドデザインの構成要素

| 第1回検討委員会(○), 平成29年度調査報告(□), かがしま未来創造ビジョン(☆) | グランドデザインの構成要素 |
|--|-----------------|
| <p>○ 持続可能な観光地とは、県民・市民が憩いの場としてよく訪れるところである。10年先を見越して、県民・市民の支持が受けられるような内容でなければならない。</p> <p>○ 与次郎ヶ浜から仙巖園まで、中央駅から天文館までの流れなど、縦軸、横軸の大きな流れを捉えて本エリアを考えていくことが必要。</p> <p>○ 鹿児島が一流のリゾートとして捉えられる地にするにはどうすればいいか考える必要がある。そのためには、知名度・認知度を上げる努力が必要であり、本エリアがその目玉になるかが一つの視点となる。</p> <p>○ 鹿児島市としては、路面電車の活用を必須条件として考えており、公募要項の中での関連の記述について考慮していただきたい。</p> <p>○ 天文館、中央駅との連続線上を担保するに当たり、交通アクセスは非常に重要。</p> <p>○ 民間事業者からの提案には文化性、歴史性、景観などを盛り込むよう、要項に文言を入れるべき。</p> <p>○ 本エリアが、鹿児島の良さを五感で堪能できるような場になり、更にここから県内各地に波及していくような役割も担っているのではないか。</p> <p>□ 年間365日、国内外の幅広い観光客や県民で賑わい、国際的な観光都市にふさわしい「来て見て感動する観光拠点」の形成 (3つの構成要素)</p> <p style="margin-left: 20px;">①かごしまの多彩な魅力を発信する人・モノ・情報の交流拠点</p> <p style="margin-left: 20px;">②かごしまの魅力を体感できるエンターテインメント空間</p> <p style="margin-left: 20px;">③景観資源(錦江湾や桜島、歴史的建造物)を活かした魅力ある空間</p> <p>☆ 多彩な魅力を活用したPRの展開(かがしま未来創造ビジョン 115ページ) 本県固有の食、自然、環境等多彩な魅力の掘り起こし、磨き上げを行うとともに、様々な切り口(黒の食材、「鹿児島のウェルネス」等)で国内外に情報発信することで本県のイメージアップにつなげます。 ～ IX 人・モノ・情報が盛んに行き交う「kagoshima」の実現 / 1 国内外における戦略的なPR展開 ～</p> <p>☆ 魅力ある癒やしの観光地の形成(かがしま未来創造ビジョン 117～118ページ) 錦江湾や桜島の美しい景観を望む鹿児島港本港区エリアについて、「来て見て感動するまちづくり」の観光の目玉スポットとして、国内外から観光客を呼び込むための拠点の整備に向けたグランドデザインを策定し、その実現が図られるよう取組を進めます。 海外旅行者を含む観光客や、県民が集い楽しめる魅力ある娯楽・観光施設などを誘致します。 地域ごとの特性を生かし、個性的で潤いのある街並み景観や沿道修景などの整備を進めます。 ～ IX 人・モノ・情報が盛んに行き交う「kagoshima」の実現 / 2 観光維新 鹿児島の創造 ～</p> | <p>開発のコンセプト</p> |

| 第1回検討委員会(○), 平成29年度調査報告(□), かがしま未来創造ビジョン(☆) | ランドデザインの構成要素 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 観光は、そこでの生活などを見に行くものであり、県民・市民がそれを誇りに思っていたり、魅力的と思っていることが大前提。 ○ 本エリアを訪れる全ての人にとって、魅力的な、居心地の良い空間であってほしい。 ○ 単機能ではなく、多くの要素が入ったまちづくりとしてほしい。既存の街の連続線上にあることを意識していただき、テーマパークのような入場料のいる街にはなあってほしくない。春夏秋冬、朝昼晩、平日休日全てにおいて情景が描けるような魅力がある街になるよう考えていく必要がある。 ○ 多機能複合型の施設としたときの施設全体としての相乗効果や、既存の中心市街地との関わりについて考える必要がある。 ○ 本エリアには航路旅客事業者が離島への旅客事業を行っており、旅客の安全を確保する観点から、港の機能が損なわれることのないよう、また、円滑や荷役作業や旅客船の定時運航に支障のないよう配慮していただいた ○ 鹿児島島の街はイタリアのジェノバに近いと思っているが、ジェノバとの違いは、港が市民の憩いの場になっていないこと。美しく居心地の良い空間とするためにも、荷役作業などどう棲み分けるかが課題。 ○ 全ての人が賛成のものはできないかもしれないが、従来の港湾機能との調整は非常に重要な課題。港湾機能を維持しながらも、その構成についてはアイデアを出してほしい。 ○ 民間からの提案に、今の既存市街地とWIN-WINの関係となるようなコンセプトを入れるようにしていただきたい。 <p>□ 本港区エリアは南北に約1,100m、東西に約600m幅で広がるエリアであり、徒歩で無理なく移動できる距離(200~300m)を上回る広さであることから、エリア内の移動環境についても検討が必要。</p> | <p>土地・建物活用の方向性</p> <p>「開発区域」や「導入機能及び機能配置イメージ」など</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 計画を進めるに当たり、県民・市民に対し、情報発信を行うことも大切。 ○ 非常に規模の大きいエリアであり、長期的に、段階を分けて提案することも現実的だと思う。 | <p>今後の進め方</p> |